

# 聖路加国際病院 整形外科



## 専門研修プログラム

2010年12月6日版

### 診療内容・科の特色

・当科は、常勤7名、非常勤3名、専門研修医3名の整形外科医師が、それぞれの専門性をいかし、日々の診療に当たっています。当院周辺の病院からの紹介、当院救急センターからの依頼も多く、あらゆる整形外科疾患に対応可能です。院内にリハビリテーションセンター(理学療法士11名、作業療法士3名、言語療法士2名)を有し、カンファレンスを通じて綿密な連携を図り、早期社会復帰を目指しています。

### 【診療内容】

- A. 関節疾患：変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性足関節症、
- B. 肩関節疾患：肩腱板損傷、反復性肩関節脱臼、肩関節拘縮、
- C. スポーツ外傷：膝半月板損傷、前十字靭帯損傷、内、外側側副靭帯損傷
- D. 骨折、脱臼：骨折、外傷全般、肩鎖関節脱臼、
- E. 脊椎疾患：腰部椎間板ヘルニア、腰椎分離すべり症、脊柱管狭窄症、脊髄腫瘍、脊椎圧迫骨折
- F. 小児：骨折、先天性股関節脱臼、内反足、斜頸、化膿性関節炎、化膿性骨髄炎、大腿骨頭すべり症
- G. 神経疾患：脊髄症、神経根症、手根管症候群、肘部管症候群、
- H. 筋、腱疾患：アキレス腱断裂、ばね指、デケルバン病、
- I. その他

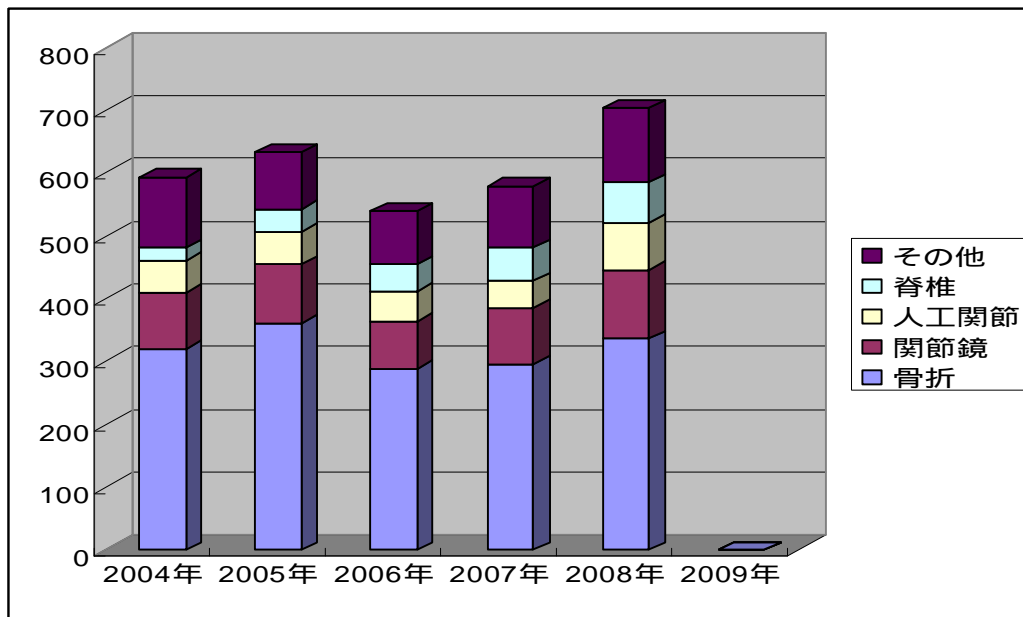
### 【検査】

外来検査：X線検査、CT、MRI、骨密度外来処置：ブロック注射(仙骨)  
関節内注射(肩、膝関節)



## 診療実績（2008年度）

- ・外来患者数： 26,040人
- ・入院患者数： 11,936人（一日平均33人）
- ・総手術件数： 703件
  - 骨折手術： 336件      関節鏡手術： 110件
  - 人工関節手術： 75件      脊椎手術： 64件
- ・学会発表： 10件
- ・学術論文： 8件



## 施設認定

- ・日本整形外科学会      ・日本整形外科学会専門医指定施設

## 専門研修医応募資格

- ・前期研修修了もしくは修了予定者。

## 取得（受験資格）可能な認定医、専門医等

日本整形外科学会認定 整形外科専門医

### 【申請資格】

- 1、申請時において4年以上引き続き正会員であること。
- 2、本規則に定めた研修期間、研修内容、研修施設の研修条件を満たしていること。

### 【研修期間】

- 1、認定資格をうるための研修期間は、臨床研修期間を含め6年以上とする。この期間を照明する複数施設の在籍証明書を必要とする（最低6ヶ月以上）
- 2、臨床研修期間を除く研修期間のうち3年間は、認定された複数の研修施設において専門医の指導の下、臨床研修をすることを必要とする。

## 【研修内容】

- 1、研修内容は整形外科外科卒後研修ガイドラインによる。

## 【申請内容】

- 1、全研修期間中に主発表者として1編以上の論文を学術雑誌に掲載するとともに、主発表者として、1回以上の学術集会での発表を行なうことを必要とする。
- 2、所定の用紙を用いて、診療記録を作成する(10症例)
- 3、研修期間中に、日整会が主催または認定する教育研修講演を受講し、所定の手続きにより30単位を取得する。

### 受講必須分野 14分野

- 1 ; 整形外科基礎科学 2単位
  - 2 ; 外傷性疾患(スポーツ障害を含む。) 2単位
  - 3 ; 小児整形外科疾患(先天異常、骨系統疾患を含む。ただし、外傷を除く。) 2単位
  - 4 ; 代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む。) 2単位
  - 5 ; 骨・軟部腫瘍 3単位
  - 6 ; リウマチ性疾患、感染症 2単位
  - 7 ; 脊椎・脊髄疾患 2単位
  - 8 ; 神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む。) 2単位
  - 9 ; 肩甲帯・肩・肘関節疾患 2単位
  - 10 ; 手関節・手疾患(外傷を含む。) 2単位
  - 11 ; 骨盤・股関節疾患 2単位
  - 12 ; 膝・足関節・足疾患 2単位
  - 13 ; リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む。) 2単位
  - 14 ; 医療倫理・医療安全、医療制度等 3単位
- 4、研修期間中の全研修内容を所定の整形外科研修記録及び研修手帳に記載する。

## 【専門医申請資格審査】

- 1、審査は毎年1回、中央委員会に期日までに申請する。
- 2、申請受付期間：7月31日まで(臨床研修開始後7年目)
- 3、専門医試験：申請受付年の翌年一月。
- 4、試験内容
  - 筆答試験：マークシート形式：120問(40問はﾌﾟｰﾙ問題より)
  - 口答試験：東日本に属する場合は、西日本の先生の面接を受ける。
- 5、資格の継続は資格取得後5年ごとに審査が行なわれる。

[http://www.joa.or.jp/jp/joa/pdf/joa\\_brochure2009.pdf](http://www.joa.or.jp/jp/joa/pdf/joa_brochure2009.pdf)

## 整形外科専門研修プログラム

### 【G10】

一般医として整形外科的疾患を持った患者を適切に管理できるようになるために、整形外科の基礎的な知識と技術を習得し、診断、治療における問題解決能力と臨床的技能、態度、を身につける。

### 【SBO s】

#### 1、基本姿勢、態度

- (ア) 患者を全人的に理解し、患者、家族と良好な人間関係を確立できる。
- (イ) 患者のプライバシーへの配慮ができる。
- (ウ) 患者の心理的、社会的背景が理解できる。
- (エ) 適切なインフォームド・コンセントが実施できる。
- (オ) 医療チームの構成員としての役割を理解し、他科医師、他職種メンバーと協調でき、適切なコンサルテーションができる。
- (カ) 患者の問題を把握し、問題解決型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。
- (キ) 患者および医療従事者の安全管理に配慮できる。

#### 2、診察、検査、診療

- (ア) 患者、家族との信頼関係を構築し、診断、治療に必要な情報が得られるような医療面接ができる。
- (イ) 系統的な全身の身体診察ができ、病態を正確に把握できる身体所見がとれる。
- (ウ) 骨、関節、筋肉、神経系の診察ができ、正確な身体所見がとれる。
- (エ) 医療面接、身体所見から得られた情報をもとに、必要な臨床検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。
- (オ) 得られた医療情報をもとに、処方、処置、手術等の適応が判断でき、基本的治療計画が立てられる。
- (カ) 治療法のうち、指示、処方、基本的手技、手術助手、周術期管理、リハビリ処方が実施できる。

#### 3、記録、プレゼンテーション

- (ア) 得られた診療情報を正確に診療録に記載できる。
- (イ) 適切な処方箋、指示書の作成ができる。
- (ウ) 診断書、紹介状、返信、入院診療計画書、退院証明書、退院時指導計画書、を作成し説明できる。
- (エ) 退院時サマリーを遅滞なく、1週間以内に作成できる。
- (オ) カンファレンスで症例のプレゼンテーションができる。

## 【LS1】

OJT

曜日	午 前	午 後	当直・オンコール
月	7:00～ジュニア/シニア レジデント病棟回診 9:00～手術あるいは外来	17:00～手術終わり次第 ジュニア/シニアレジデント 病棟回診	オンコール
火	6:30～ジュニア/シニア レジデント病棟回診 7:30～カンファレンス 第1週 専門カンファレンス 上肢、スポーツ 下肢、人工関節 脊椎 9:00～包交回診 ジュニア/シニアによる	13:00～手術あるいは外来 17:00～手術終わり次第 ジュニア/シニアレジデント 病棟回診	
水	7:00～ジュニア/シニア レジデント病棟回診 8:30～手術	17:00～放射線科との カンファレンス(画像診断) 18:00～ ジュニア/シニアレジデント 病棟回診	オンコール
木	7:00～ジュニア/シニア レジデント病棟回診 8:30～手術	17:00～手術終わり次第 ジュニア/シニアレジデント 病棟回診	
金	6:30～ジュニア/シニア レジデント病棟回診 7:30～術前カンファレンス 9:00～包交回診 ジュニア/シニアによる	13:00～外来あるいは手術 17:00～5E病棟にて 病棟カンファレンス 17:30～10E病棟にて 病棟カンファレンス (Dr,Nrs,PT,SW) ジュニア/シニアレジデント 病棟回診	オンコール
土	9:00～ジュニア/シニア レジデント病棟回診		
日	9:00～ジュニア/シニア レジデント包交回診		オンコール

## 【専門研修一年目の業務】

### 病棟業務

研修医（ジュニア・シニアレジデント）がいるときは一緒に受け持ち、いないときは直接担当し、上級医の指示のもと診療にあたる。

- 1) 専門研修医（シニアレジデント）病棟回診は入院患者の診療、診療録記載などをする。
- 2) 週 1・2 回、整形外来業務に当たる。
- 3) 上記以外にも準緊急手術が火曜日と金曜日の午後に行われる。
- 4) 緊急手術は夜間休日にもおこなう。
- 5) 外科系病棟当直が月に数回ある。
- 6) 夜間のオンコール、休日（土、日、祝祭日）のオンコールが交代であり、入院患者や救急患者の診療にあたる。

### 外来業務

自分が主体になってフォローし診療するが、必要に応じて指導医に相談し、指示を受ける。夜間当番時の救急患者は直接担当し受け持ち、指導医に相談し、協力して診療する。

- 1) 専門研修医二年目以降
- 2) アテンディング、スタッフの指導下に週 1.2 回程度の外来を行う
- 3) 主に自分の手術した症例のフォローアップ、新患・紹介受診患者の初診など

### 学術活動

年 1、2 回程度の学術学会への参加と発表が望ましい。

### 各自業務

**医局業務**：医局内の連絡事項の取りまとめ、平日・週末オンコールの分担、カンファレンスの日程の決定

**レジデントへの講義**：外傷カンファレンス（月二回程度） - 救急部の専門研修医と合同、テーマの模索、スライドの作製、講義（30 分程度）

**各種診断書作成**：週 10 通程度

**院内委員会への参加**：サービス向上委員会、オーディット委員会など

**院外業務**：

## 【LS2】

### <院外のカンファレンス・研究会>

院外では毎月行われる他院との合同カンファレンス・研究会に参加し、学会主催の研修会、学術集會に出席する。

### 《臨床整形外科研究会》

国立国際医療センター、社会保険中央病院、東京警察病院、厚生中央病院の整形外科と毎月持ち回りで症例検討会を実施している。

### 《8 病院整形外科懇話会》

虎ノ門病院、都立駒込病院、NTT 東日本病院、東京通信病院、JR 東日本病院、日本赤十字医療センター、社会保険中央病院の整形外科と 3 ヶ月に 1 回持ち回りで症例検討会を実施している。

### 《整形外科臨床を語る会》

虎ノ門病院、国立国際医療センター、都立駒込病院、癌研病院、東京警察病院、厚生年金病院、

公立昭和病院の整形外科を中心に年に2回テーマを決めて講演研修会を開いている。

#### <短期他施設研修>

専門研修4年間のうち、6ヶ月以上は他専門研修指定施設での研修が義務付けられている。

和歌山県立医科大学整形外科（脊椎グループ）、川崎市立川崎市民病院（手の外科）  
船橋整形外科（関節鏡）、榛名荘病院（群馬脊椎脊髄病センター）

#### <学会への参加>

- ・日本整形外科学会
- ・東日本災害整形外科学会
- ・関東整形災害外科学会
- ・日本人工股関節学会、日本膝学会、日本関節鏡学会、日本脊椎脊髄病学会、日本肩関節学会、等

#### 【EV】

- (ア) 年1回程度部長の司会により、指導医、専門研修医（シニアレジデント）の双方向の討論、指導をする。
- (イ) 通常はカンファレンス、病棟回診、X線カンファレンス、学会、研修会の発表、予講の際に指導医による評価が行われる。
- (ウ) 整形外科医として必要な一般的事項の到達目標と評価を整形外科学会の研修医手帳を参照してS2修了時および専門医審査申請時に各自および指導医が行う。

#### 【経験できる診断基本手技】

運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する。

身体計測（ROM, 四肢長、四肢周囲径など）

骨・関節の身体所見

脊椎の身体所見

神経学的所見（MMT, 感覚、反射等）

X線写真、CT、MRI

電気生理学検査（筋電図、神経伝導速度など）

骨量の測定

関節造影、脊髄造影

組織生検

病理標本

関節鏡検査

日本整形外科学会評価判定基準

#### 【経験できる治療基本手技】

運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する。

骨折・脱臼の徒手整復

緊急の基本的創傷処置（ブラッシング、デブリドマンなど）

局所麻酔法

固定法（包帯法、副木、ギプス、テーピングなど）

牽引療法、理学療法、運動療法、作業療法、装具療法

関節穿刺・注入

直達牽引

神経ブロック（仙骨ブロック、硬膜外ブロック、神経根ブロックなど）

手術手技（骨・軟骨・神経・血管・筋腱・靭帯など）

術前の準備（体位、手洗い、ドレーピングなど）

骨移植、バイオマテリアルの種類

手術記録の作成

術後のリハビリテーションの指示

### 【経験できる疾患】

外傷

1. 新鮮開放創
2. 神経断裂
3. 脊椎損傷(骨折・脱臼)
4. 脊髄損傷
5. 胸郭損傷
6. 鎖骨骨折
7. 肩関節脱臼
8. 肩鎖関節脱臼
9. 上腕骨近位端骨折
10. 上腕骨骨幹部骨折
11. 上腕骨顆上骨折を含む肘関節部骨折・脱臼
12. 肘内障
13. 前腕骨骨折
14. 手関節部骨折（手根骨骨折・脱臼を含む）
15. 手指の骨折・脱臼
16. 指関節靭帯損傷
17. 手の腱損傷
18. 骨盤骨折
19. 股関節脱臼
20. 大腿骨頸部・転子部骨折
21. 大腿骨骨幹部骨折
22. 膝周辺骨折・脱臼・靭帯損傷
23. 下腿骨骨折
24. 足関節部骨折・脱臼
25. 足関節靭帯損傷
26. 踵骨骨折

## 疾患

1. 離断性骨軟骨炎，肘のスポーツ障害
2. 脳性麻痺
3. 筋性斜頸
4. 多・合指症
5. 先天性股関節脱臼
6. Perthes 病
7. 先天性内反足
8. 骨系統疾患（骨異形成症，異骨症）
9. 先天性偽関節
10. 代謝性骨疾患（骨軟化症，副甲状腺機能異常，甲状腺機能異常，成長ホルモン異常症，骨 Paget 病）
11. 骨粗鬆症
12. 痛風，偽痛風
13. 血液透析による骨関節症
14. 軟部腫瘍（線維性腫瘍，脂肪腫，血管腫，末梢神経腫瘍，線維肉腫）
15. 色素性絨毛結節性滑膜炎
16. 骨原発性腫瘍（骨軟骨腫，内軟骨腫，骨巨細胞腫，良性軟骨芽細胞腫，類骨骨腫，骨線維腫，骨嚢腫，線維性骨異形成症，Ewing 肉腫，骨髓腫，骨原発性悪性リンパ腫，脊索腫）
17. 骨転移性腫瘍
18. 関節リウマチ
19. 化膿性骨髓炎（脊椎炎）・関節炎
20. 結核性骨髓炎（脊椎炎）・関節炎
21. 頸椎椎間板ヘルニア
22. 脊柱靱帯骨化症
23. 変形性脊椎症（頸・胸・腰椎）
24. 脊柱管狭窄症
25. 腰椎椎間板ヘルニア
26. 腰椎分離症・すべり症，腰椎変性すべり症
27. 脊柱側彎症
28. 脊髄腫瘍・馬尾腫瘍
29. 強直性脊椎炎
30. 腕神経叢麻痺
31. 肩関節周囲炎・五十肩
32. 肩腱板断裂
33. 肘部管症候群
34. 手根管症候群
35. ばね指，de Quervain 腱鞘炎
36. 手，足の骨端症，骨壊死症（5Kienböck 病，Scheuermann 病，Osgood-Schlatter 病，Köhler 病）
37. 大腿骨頭すべり症

- 38. 変形性股関節症
- 39. 大腿骨頭壊死症
- 40. 変形性膝関節症
- 41. 膝内障
- 42. 膝蓋大腿関節障害
- 43. 外反母趾
- 44. 四肢循環障害

**【経験できる手術（専門研修医一年目）】** 2007 年度入局 専門研修医

骨折：骨、肩鎖関節：7

上腕骨、前腕骨、手関節、手指：32（創外固定：8）

骨盤：1（創外固定 1）

大腿骨頸部：42（人工骨頭：10、pinning：5、CHS：17、 nail：10）

大腿骨、膝関節：11

下腿骨、足関節、足趾：15

非観血的整復内固定：17

抜釘術：50

アキレス腱：3、屈筋腱：11、伸筋腱：1、末梢神経手術7、手根管：3、肘部管：2、縫合：1

ばね指：5、I&D：9、切断：2、減張切開：5

**【習得できる専門医】**

- ・ 日本整形外科学会専門医
- ・ 日本整形外科学会認定：リウマチ医、脊椎脊髄病医、スポーツ医、運動器リハビリテーション医
- ・ 日本脊椎脊髄病学会認定：脊椎脊髄外科指導医
- ・ 日本体育協会認定：スポーツクター